

公民館
だより

「犬のしつけとマナー講習会」



日にち 6月19日
場所 中央公民館

ペットに対する苦情や問い合わせが増加しています。中央公民館で愛知県動物保護管理センター知多支所の職員を講師に迎えて「犬のしつけとマナー」の講習会を開きました。参加者はペットのしつけや飼い方などの話を熱心に聞き入っていました。愛らしいアシスタント犬の「ムック」も受講者の前で、講師の一員として頑張っていました。

「パソコン教室・基礎」



日にち 6月4日～6月11日 全6回
場所 阿久比中学校

阿久比中学校のコンピューター室で、パソコン教室「基礎」を開きました。今回初めての試みとして、阿久比中学校のパソコン部にアシスタントをお願いしました。年配の受講生は、年の離れた中学生アシスタントに囲まれ、和やかな雰囲気の中勉強していました。受講後の感想は「質問しやすかった」「一生懸命答えてくれた」「元気をもらった」など好評でした。

酒の醸造にたずさわる人のことを「サカロク」と言います。いつごろからサカロクに出ているか分かりませんが「徇行記」によると、江戸時代の中ごろからすでに始まっていたと思われる、宮津の八十人をはじめとして板山、坂部、萩、稗之宮などから農閑期にはサカロクとして働きに出ています。



行き先は半田・亀崎・知立・海部郡などの県内をはじめ岐阜・三重・静岡など各地に出ています。出掛

けるときのメンバーはほぼ決まっています、オヤジ（サカロク全体を統制し、酒造りの全責任をもつ杜氏）が近所の人たちを十人から十五人ぐらいを引き連れていくことが多く、平均して四年、五年で酒屋を変わっていました。

多くの人は秋の米の取り入れが全部終わらないうちに出掛けていたため、米の取り入れの後片付けは、年寄りや女性の仕事となっていました。サカロクが家に帰る時期は、三月末ぐらいで、仕事の内容や出掛ける地方よってバラバラでした。

阿久比町では昭和のはじめころまでサカロクとして働きに出掛けていましたが、それ以来酒屋も会社組織となり、サカロクとして出稼ぎする人はいなくなりました。

（参考 阿久比町誌資料編八）

「横松大工に萩左官、宮津サカロク」
その二「宮津サカロク」の話

子どもに伝えたい
あぐいのむかし

22